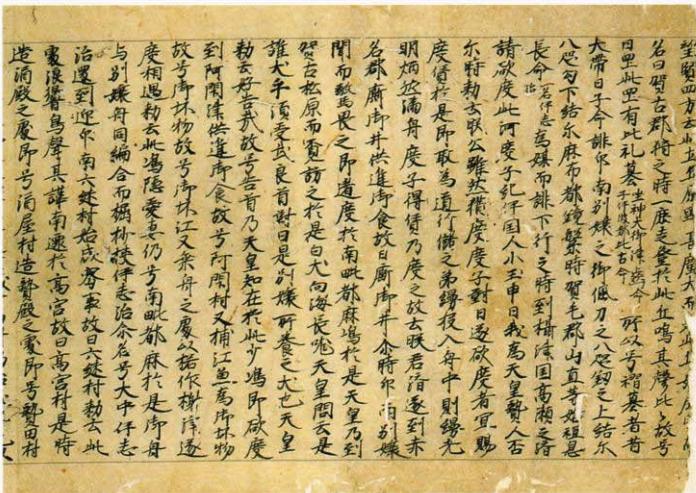


# やまととの名品 天理図書館



## はりまのくにふどき 播磨国風土記(国宝)

平安時代末期写 1軸  
紙高28cm 全長8m86cm

# 天理図書館

## 播磨国風土記

平成二十二年(11010)、奈

させたことがわかる。

良県で「平城遷都一三〇〇年祭」が賑やかに開催されたことは記憶に新しい。その平城京遷都から遅れること三年、和銅六年(713)に元明天皇は、諸国に風土記作成の勅命を下した。

風土記はその命に従い、調査結果を中央政府に報告した官撰の国別地方誌のことである。後世のものと区別して古風土記とも呼ばれる。

図に掲げた『続日本紀』和銅六年五月甲子の条によれば、諸国郡郷の地名はめでたい文字を以て記し、その地の産物や、土壤の肥沃さ、地名の由来、古老旧聞の伝承などを記録して報告

するのみである。

しかし、この時に作成されたであろう六十余国の中、そのほとんどは散逸してしまい、今では「常陸」「出雲」「肥前」「豊後」「播磨」の五風土記が伝存す



掲出はこのうちの『播磨国風土記』(播磨国は現在の兵庫県南部)で、卷初の総説部分と明石・赤穂の二郡を欠くが、賀古(前欠)・印南・飾磨・揖保・讚岐・宍粟・神前・託賀・賀毛・美嚢の十郡を残し伝えている。

書き写された時代は、平安時代末期で、本書は現存『播磨国風土記』の諸本中唯一の祖本であるばかりでなく、諸国風土記の伝本中最も古い写本でもある。永らく三条西家に秘蔵され、その存在が知られたのは江戸時代極末期。縁あって本館の収蔵となり、昭和四十年五月国宝に指定された。

(天理図書館 岡本千佳)